

1964×2020 東京オリンピック聖火ランナー インタビュー

56年前の東京1964オリンピック、
そして今年開催される東京2020オリンピックの聖火ランナーの方々からお話を伺いました。

1964年
ランナー



吉岡 伸義 さん

よしおかのぶよし

武内町在住。
1964年東京オリンピック
聖火ランナー。

吉岡さんは、1964年の東京オリンピックにおいて、聖火ランナーとして走られました。

当時20歳の吉岡さん。地元の青年団の事務局長などをしてきたことから候補として選出。実際に決まった時はとても驚かれたそうです。厳格に執り行われるリレー。その練習として集められた選手は400mのトラックを10周、時速14キロと決まった速度で走らなければならず、ついでいくのが大変だったそうです。

いよいよ聖火リレー当日。「武雄のまちは、道の両側にたくさんの方が並んでいてびっくりしました。市内の中学校からは、みんな歩いてきて沿道に並んで。これだけ人が集まったことは当時なかったんじゃないでしょうか」と話される吉岡さん。当時の思いを聞くと、「とにかくきちつとリレーをつながないといけないという使命感があ

りました。途中で倒れたりしないように。次の走者に火を渡し終えたときは「安心しました」とのこと。その後3年ほどは、街で多くの人から声を掛けられたそうです。「聖火リレーというのは、これからオリンピックが始まるんだと盛り上がるための大事なセレモニー。競技は東京であるけれど、武雄を通る聖火リレーを盛り上げて、オリンピックの成功を応援したい。オリンピックで武雄がひとつになるチャンス」と今回の聖火リレーに対する思いを聞くことができました。

当時のユニフォームとトーチ



2020年
ランナー

中村 豊子 さん

なかむらとよこ

武雄町在住。川良区長。
佐賀県実行委員会選考聖火ランナー。

選ばれた時は、驚きのあまり近くにいたご主人に抱きついてしまったという中村さん。12月に決定の通知が来た時には涙が出るほど嬉しかったそうです。

中村さんは川良区長として、毎日子どもたちの登校時に交通安全の見守り活動をされています。今回、ランナーに応募されたきっかけは、中村さんの好奇心から。「募集の話があった時、区長会の皆さんからは代表で出らんねと言われていました。今年で70歳になり、区長も10年目という節目になるので、やってみたいと応募しました」と応募当時のことを話くださいました。

聖火ランナーに選ばれた事が公開されるとその反響は大きかったようで、周りの多くの方から「今度、走るとよろ。応援に行くからね」と声を掛けられたそうです。

中村さんは意気込みとして、「今回の聖火リレーのコンセプトが『希望の道を、つなぐ』」。

です。昨年は災害がありました、私が走る姿を見て皆さんが元気になってもらえたらという思いで走りたいと思います。5月10日は日曜日なので、多くの方に会いに来て欲しいです」と語っていただきました。

2020年
ランナー



大庭 弘毅 さん

おおばこうき

若木町在住。
NPOスチューデント・サポート・フェイス理事。
佐賀県実行委員会選考聖火ランナー。

大庭さんに応募のきっかけを聞くと「前回の東京オリンピックの時、地元の先輩で従兄である大庭健三さんが、聖火ランナーのサポートランナーとして走った姿を見たときの憧れがずっとありました。スポーツにずっと関わってきたので、ぜひ走りたいと応募しました」と話されました。

現在、NPOスチューデント・サポート・フェイスの理事として活躍されている大庭さん。その前は体育教師として、多くの子どもたちとスポーツで交流をされてきました。

「今まで関わった皆さんに、元気にまだ頑張っている姿を見せて、感謝の気持ちを伝えたいと思います。スポーツに関わってきた人生。その集大成となれば、という思いです。また、働くことに悩んでいる若い人をサポートするという仕事柄、これから先の若い人たち、仕事や人生に悩み、一歩踏み出せない皆さんに、この年齢になっても頑張ればやれるという姿を見せることで、希望や光、応援になればという気持ちがあります。世界規模の大きな大会。手に持ったこの火が東京に届けという思いでつなきたいと思います」と意気込みを語っていただきました。

5月10日
聖火が
武雄市内を走ります!!

武雄市では、武雄競輪場公園前から武雄温泉楼門まで聖火リレーがながれます。

聖火リレー前後は、交通規制がかかります。
時間や場所など詳しい情報は、今後決まり次第お知らせいたします。



5月10日(日)に武雄市で実施する「東京2020オリンピック聖火リレー」について、聖火リレーを安全かつ円滑に実施するために「ボランティアスタッフ」を募集します。

詳しくは30ページをご覧ください。